

ニチニチソウ



■ニチニチソウのプロフィール

学名： *Catharanthus roseus*

科名：キョウチクトウ科

分類：一年草

原産地：マダガスカルなどの熱帯地域

ニチニチソウは5～10月の長い間、毎日のように花を咲かせます。その姿は清楚で愛らしく、あまり土質を選ばず、高温と日照を好む乾燥に強い丈夫な植物なので、夏の花壇には欠かせない存在です。ひとつの花の寿命は2～3日ですが、毎日次々に咲き続ける事から「日々草」とよばれます。ニチニチソウには矮性、高性、這い性の3タイプがあり、近年は花形の改良が進み、風車咲きやフリンジ咲きなども流通しています。

ニチニチソウ属の植物は8種が知られており、そのうちの7種が、アフリカのマダガスカルに分布しています。私たちが普段育てるのは、マダガスカル原産のロゼウス (*Catharanthus roseus*) を中心に改良したものです。

ニチニチソウは、ビンカと呼ばれることもあります。じつはビンカは別属のツルニチニチソウ属の学名です。これらはニチニチソウ属の植物とよく似た花を咲かせる植物で、ビンカ・マヨール (*V. major*) は造園の現場でも多く使われています。

■ニチニチソウの育て方

●タネまき

あたたかい地方原産の花なので、発芽適温は高めです。25℃。タネまきの適期は5月から6月です。箱まきにする場合は、1か所に3～4粒ずつ点まきし、そのまま間引かずに3株ほどまとめて移植して育てると、早くたくさんのお花が楽しめます。このようなタネまきを「多粒（たりゅう）まき」といいます。

なお、タネをまくときには、タネに光が当たると発芽が悪くなる性質がありますので、タネが見えなくなる程度に、軽く覆土するようにします。

●育て方のポイント

種まき後、10日前後で発芽が始まります。ニチニチソウは発芽した茎の色で大体の花色がわかります。ピンク色の茎の物は赤系の花、白っぽい茎の物は白系の花が咲きます。

種まきから1ヶ月足らずで本葉が4枚ほどになり、このころが移植（ポット上げ）の適期です。本葉が6～8枚くらいで花壇やプランターに定植します。日当たりと水はけ、風通しの良い場所を好みますので、株間はやや広めにします。夏、枝が伸びすぎたりして姿が乱れてきたら、枝を透かしたり、切り戻しをしたりして、全体の形を整えます。切り戻した枝で挿し木をすることもできます。

